

命

くし形小 五年

関せき 啓汰けいた

ぼくのひいおじいさんは今年の七月三十日に九十四歳でせくなりました。一緒に暮らし
ていなかったのので、ひいおじいさんの事はよく
知りませんでした。僕のお母さんやおじ
いさんが昔の話をしてくれました。

ひいおじいさんは、大正十四年に生まれて
東京で育ちました。太平洋戦争が始まると、
陸軍の少いとして、満州に引っ越しまし

た。戦争が終ると、ほりよとになってシベリ
アによく留されました。僕はシベリアよく留
のことはよくわからなかったのので、母に聞いて
みました。シベリアよく留は、終戦後、投
降した日本軍が、ソ連軍によってシベリアへ
連れて行かれ、長い間強制労働をさせられた
そうです。とても寒くて、食べる物もなく、
休む事もゆるさえない、かこくなかん境でし
た。約五万人が亡な。たそうです。僕はこん
な所にひいおじいさんがいたと思うと、どこ

もこおくなり、悲しくなりました。ひいおじ
いさん、つらかっただろうな、苦しかった。ただ
ろくな。想像するとなみだが出てきます。ひ
いおじいさんの仲間もシベリアでたくさん亡
くなっていると思います。しかし、ひいおじ
いさんは日本に帰ってきてくれました。かこ
くなか人境も生きぬいてくれました。そして
僕が生まれました。ひいおじいさんが生き
て帰ってきてくれなければ、僕は生まれてい
ないのです。だから、命は大切にしなければ

いけないと思いました。
今回、戦争について少し知ることがございま
した。戦争は何のつみのない大切な人の命を
うばってしまいます。シベリアで亡くなった
人々も一人一人大切な命でした。あのような
戦争は二度とおきてほしくありません。自分
の命も他の人の命も大切にできる時代が続く
といいなと思いました。